



あいじつ



開校144周年

多様性を認める

副校長 原島 謙一

残暑が厳しいですが、月がきれいに輝きを増す季節になりました。日本では、月に「餅をつくウサギ」が見える、と古くから言われてきました。確かにそのように見えるかもしれません。

しかし、海外では「大きなカニ」「吠えるライオン」「本を読む老婆」など、地域や民族によって全く異なる絵柄を読み取ってきました。また、同じウサギであっても緯度が変われば、見方も変わります。例えば南極観測に2度赴いた名古屋市科学館の小塩哲朗学芸員は、「南極で観察すると、月のウサギは仰向けに寝そべっていました。餅つき中には見えませんでした。」と述べています。また、極地で撮った写真の中に、観測船「しらせ」から見た月を納めた一枚があります。真っ白な氷山の向こうに、赤茶けた色の月が浮かんでいるそうです。紺碧の空とは対比して神秘的だそうです。日本で見る月とは全く違うそうです。このように「月」を見ていてもそれぞれの感じ方、見方は全く違うのです。

学級の中でも一人一人、みんな違います。顔も違えば、性格、育った環境も違います。違うことが当たり前ののです。しかし、みんな同じ人間で必ずよい面をもっています。見る角度を変えれば違った見え方がしてくるはずです。様々な「個性」をもった子どもたちが、互いのよさを認め合い、関わり合って、自分の中に取り入れていこうとすることは「豊かな心」の成長につながっていきます。

これから、運動や勉強に取り組みやすい季節になっていきます。様々な取り組みをする中でお互いの多様性を認め合い、関わり合っていくことで子どもたちはさらに成長してってくれることでしょう。

愛日スタンダードについて

生活指導主任 我妻 夢子

私達は家庭や学校、地域といった、様々な「社会」の中で、周囲の人たちと関わり合いながら生活しています。小学校では6歳から12歳までの幅広い年齢層の児童が生活しています。皆が安全で安心して過ごすために“きまり”があり、それを皆が守ることが大切です。学校では学活や道徳の時間を使い、様々な角度から“きまり”を守っていくことの大切さ、規範意識を育てています。

「愛日スタンダード」には、

・登下校 ・持ち物 ・生活 ・遊び ・学習

の内容が書かれています。各学級でも「愛日スタンダード」の確認をしています。ご家庭でも折をみて、お子様と一緒に確認をお願いします。

体力向上

体育主任 富樫 孝太郎

愛日小学校では、年間を通して体力向上の取組を行っています。10月9日から23日までの期間は、「長縄週間」として、全校での体力向上に向けた取組を実施します。長縄週間では、休み時間に毎日学級で八の字跳びを練習します。低学年の児童も行い方が分かるように、運動委員会による集会を行い、八の字跳びの跳び方の見本も見せます。23日には、全校で記録会を実施し、各学級3分間で何回跳んだかを記録し、練習の成果を発揮します。

長縄週間を通して、全校児童が運動に親しみ、意欲的に運動に取り組む態度を身に付けてほしいと思います。